

## ●題名

2016年6月18日土曜 笛吹川鶴冠谷右俣

## ●参加者

斎藤(リーダー)、松村(SL、記録)、谷内、小嶋、荒井、飯野

## ●記録

奥秩父の沢を初めて遡行したので新鮮だった。斎藤リーダーの計画のおかげである。天気にも恵まれ、快適な遡行だった。

宇都宮から藤岡まで移動してそこで飯野と合流する。その後は一般道を行くが、藤岡から西沢渓谷まで2時間半程度であろうか。思ったよりも秩父は近い。

綺麗なトイレのある駐車場で前泊する。ついつい会話が弾んで、気がつくと1時過ぎである。ゆるい山行を計画した理由を、「ケイレイ会から女性沢パーティーが生まれてほしいと思っているんですよ」と語る斎藤の瞳には、すけべえ心の欠片もなかった。沢でにゃんにゃん(=^・^=)したいわけではないのか…！ 過去に、会員のK氏が「若いころに女性に良くしてもらったから、その恩返しをしているんだよお」的なことを言っていたのを思い出した。私は「モテ男、女体、恩返し論」と呼んでいる。

翌朝、入渓点までスムーズに到達する。やはり、遡行経験者がいると楽である。鶴冠谷右俣は日陰が多く、ゴルジュ出口の滝までは肌寒かった。その滝であるが、松村が残置ハーケンに誘われて左壁に取りついてみたものの、登れずに、斎藤に右壁のルンゼを高巻きしてもらった。右壁は抜け口がスラブになっているので登れないかと思ったが、斎藤はそこも上手に高巻いていた。

ゴルジュを抜けると、一転して日差しが眩しい。ただ、この時点で計画よりも1時間以上遅れていたので、足早に通り過ぎる。奥の二俣の大滝の手前で左岸の尾根にエスケープする。先頭の飯野が藪の薄い所をうまくついたので、藪こぎなしで登山道にでる。下りは2時間掛らなかった。

